

「伊吹山 バスツアー」(ご案内)

ー 初秋の伊吹山上のお花畑観察・鹿の食害対策と実態 ー

自然と文化科・観察委員会

2019 年以前は毎年夏期に納涼を兼ねての伊吹山上のお花畑の観察会が実施されてきました。

ただ、ここ 2 年ほどはコロナ禍の影響もあり、中断。今回は季節を変え初秋のお花畑の観察会を企画致しました。お花畑は夏季だけでなく初秋にも多くの花々が見られたとの記録も残っていますが……。問題は「鹿」による食害。ご承知のように、山上には一応防護柵が設けられ植生の保護が進められてきてはいますがその効果はどうなっているのでしょうか。一方、温暖化の影響か植生群落にも変化が見られるようにもなっても来ているように感じられます。一日、山上に咲く花々を訪ねると共に、鹿の食害の実情、植生の変化などについても観て見ましょう。

1. 実施日

2022年8月26日(金) 雨天決行

2. 集合場所・時間

場所： 西梅田 大和ハウスビル前

時間： 7時50分

3. ルート

(バス) 西梅田 8時出発～阪神・名神高速～草津 SA9:00 頃～伊吹山上駐車場

(1,260m、11:00 頃到着予定)

帰路 14:30 出発～醒ヶ井～大津 SA～西梅田 (18:30 頃)

(観察コース) 西遊歩道―山頂部(WC・昼食)―中央遊歩道―山上駐車場の予定

*観察コースは登り約1.2km、標高差約120m、下り約0.8km、

(・降雨等荒天時は逆コースに変更します。)

(・東遊歩道は今シーズン手入れされておらず観察行には不向き・利用しない)

*帰途に醒ヶ井・地蔵川の梅花藻、了徳寺のお葉付イチョウを見学予定

4. 観察の目的 (前述)

初秋の高原植物の観察・・・主に草本(花)中心の観察です。

5. 装備、持参品等

・通常のハイキングスタイル(暑さ・寒さに対応できるように)

・雨具(雨傘の使用は不可)

・昼食、多めの飲料、観察用具、ストック、健康保険証等

・資料 初秋に見られる花・リスト、

伊吹山のあれこれ改 2022 (一部改訂しました一読下さい)

6. 交通費(バス代など)

3,500円の予定

＊伊吹山の名の由来：

本州の最も狭まった地域に位置し、冬の季節風の影響を受けやすく、時としてドカ雪に見舞われる。その吹きおろす風から「息吹く山」、伊吹山となったのではないかと言われている。

・伊吹山と南の鈴鹿山系の霊仙山とを隔てる関ヶ原は地峡になり、大陸からの季節風が集束し強風になることから「息吹き」、転じて「いぶき」となったという説もある。



＊位置

伊吹山は琵琶湖の東にあり、滋賀県と岐阜県の境で独立峰を形成している。石灰岩地帯に属し、周辺に高い山がないことから四季を彩る美しい山容が広く愛され、山の品格、歴史、個性に優れているものとして、1964年に深田久弥氏により日本百名山の一つとして選ばれた。

＊古代から『古事記』『日本書紀』など文献に記録され、ヤマトタケルの伝説、修験道の修行場、関ヶ原の合戦など多くの歴史に彩られている。



＊地形・地質

山体の大部分は2億5000年前に赤道付近で形成されたサンゴ礁由来の石灰岩で成り立つ。標高は1377mに過ぎないが、周囲に高い山がないので湖北地域のランドマークとなっている。

＊隆起山体であり、山頂部分では平原状、ドリーネ（すり鉢状の凹地）等石灰岩台地特有の地形がみられる。

＊西側斜面は石灰岩の断層崖で「白じゃれ」「大富抜け」などと言われる崩壊崖が見られ、セメント製造用の石灰岩の採掘がおこなわれていた。一方、南西斜面は傾斜が緩くスキー場（3合目付近）として利用されていた。また南斜面は急斜面で麓に扇状地を作っている。

*伊吹山付近、関ヶ原付近の地質図

- ・ブルーゾーンの▲印；伊吹山の山頂部
- ・赤いグネグネした線；伊吹山ドライブウェイ
- ・中央部に東西に走る線路；東海道新幹線、東海道線

[地質の凡例]

- ・赤い線；主な活断層
- ・緑色；玄武岩（ジュラ紀付加／丹波美濃帯）
- ・黄色；砂岩（ジュラ紀付加／丹波美濃帯）
- ・ブルー；石灰岩体（ジュラ紀付加／丹波美濃帯）
- ・オレンジ；チャート（ジュラ紀付加／丹波美濃帯）
- ・グレー；メランジュ相（ジュラ紀付加／丹波美濃帯）



*気象・気候

日本海の若狭湾と太平洋の伊勢湾を結ぶ風の通り道の壁になるため大陸から日本海を渡る湿った強い風が変化に富んだ独特の気候を生む。伊吹山の月平均気温は8月で18.1℃、2月で-5.2℃である。気温が低く降水量が多いうえ特に冬期に積雪が多い日本海気候区北陸型に属する。

- ・他の山岳と比較して、高さの割に風が強いことが特徴である。山上は気温が低く降水量も多い。特に冬期に積雪量の多い日本海気候区北陸型に属する。

（積雪量はかつては、山頂部で5m（2月）になることもあったが・・・。）

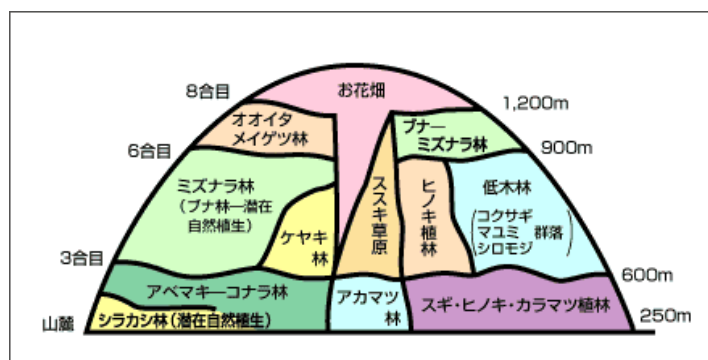
- ・冬季は若狭湾からの北西風、夏季には伊勢湾からの南西風が強く吹く。1～2月が10m/s、7月で7m/s（最も弱い季節） 他、他の山に比べ高さの割に風が強い。
- ・一年を通じて霧の発生が多く、年間の霧発生日数は300日程度となっている。

***伊吹おろし**：濃尾平野の北西には若狭湾から琵琶湖を経て伊吹山の麓の関ヶ原に至る回廊状の地形が存在する。このため、日本海側の冬の季節風がこの回廊を通して吹き込んでくる。この風は若狭湾～琵琶湖で降雪や曇天をもたらし、関ヶ原を越えるころには乾いた冷たい風となって濃尾平野に吹き込む。これが「伊吹おろし」と呼ばれるものである。

- ・なお、「伊吹おろし」の呼称は、三重県の北勢地方でも冬季に吹く北よりの季節風にも使われている。この地方では、ほぼ真北方向に伊吹山の南東斜面（草地）に積雪した姿が白い壁として見られ、強い季節風がこの方から吹くからなのであろう。

*植物相・

滋賀県全域で、維管束植物は2300種、伊吹山には1,300種が生育している。伊吹山の植物は地理的、地質的、気候的な立地条件から同山系にのみ自生する特産種類、北方系要素の植物、多雪型日本海要素の植物、好石灰岩植が見られ、特殊な立地条件から、伊吹の名前が頭についた植物名が多いのも特色である。



現在の伊吹山植生模式図

*層別すると

麓から海拔300m：潜在自然植生はシラカシ林であるが、現状は殆ど残っていない。

300～600m：薪炭林として利用されアベマキ・コナラ林、尾根筋でアカマツ林。
スギ、ヒノキ、カラマツの植林

600～900m：薪炭林として利用、ミズナラ・コナラ林、谷筋にケヤキ林、ヒノキ造林地
伐採地にコクサギ、マユミ、シロモジなどの低木群落が見られる。

900～1200m：石灰岩質特有のオオイタヤメイゲツ林、場所によりブナ・ミズナラ林

1200m以上は山地草原ができている。窪地でイブキザサ、チシマザサ群落

*伊吹山お花畑の特徴

日本海から渡ってくる冬の季節風を受け山頂は豪雪をかぶる。石灰岩台地の透水性により樹木は育ちにくく、豊かなお花畑となる広い山地草原と特有の植生から山頂一帯が天然記念物に指定されている。◆琵琶湖国定公園、「伊吹山草原植物群落」として国指定天然記念物、日本百名山

**お花畑に生育する植物の特徴・・・6点

1) 固有種（特産種）の宝庫

コイブキアザミ、ルリトラノオ、イブキコゴメグサなど9種

2) 北方系要素の植物の南限

氷河期に北極周辺から樺太、千島列島を経て日本に入り南下した植物群。多くの北方系要素植物の南限は石川県白山となっている。しかし、伊吹のお花畑では、イブキトラノオ、サラシナショウマ、サンカヨウ、マルバタケブキ、メタカラコウ、キオン等北方系要素植物が生育。

*特に、グンナイフウロ、ハクサンフウロ、キンバイソウ、エゾフウロウ、イワシモツケなど西南限となっている。ニッコウキスゲも南限に近い。

3) 日本海要素の植生。

日本海要素：日本海側の斜面に生育したり分布する多雪地帯の植物群。

イブキトリカブト、スミレサイシン、ミヤマイラクサ・・・など

4) 石灰岩地に適した植物の存在。

イチョウシダ、ヒメフウロ、キバナハタザオ、イワツクバネウツギ・・・など。

5) そうやき要素の植物

和歌山紀ノ川、四国吉野川、九州八代＝臼杵を結ぶ、線以南、西日本の中央構造線以南に分布の本拠を置く植物群。キンバイソウ、ミカエリソウ、カキノハグサ・・・など

6) 大陸系の植物の存在

中国の東北部や朝鮮半島に分化発生の本拠をもつ温帯性の植物。中国大陸と共通して分布。

オケラ・タムラソウ・マルバタケブキ、クガイソウ など。

*これ等の山地草原群落を植物社会学的に区分するとおおむね以下の8群落に分けられる。

A. メタカラコウ群落

B. オオバギボシ・メタカラコウ群落

C. オオバギボシ群落

D. オオバギボシ・ショウジョウソウ群落

E. ショウジョウスゲ群落

G. イブキノエンドウ群落

H. フジテンニンソウ群落（拡大中）

I. サラシナショウマ群落

他に、アカソ群落、シモツケソウ群落、など

＊山地草原以外の群落

・オオイタヤメイゲツ — ミヤマカタバミ群落

・イブキシモツケ群落 石灰岩の露岩地域を優先

＊伊吹山お花畑と日本鹿の食害問題

本件に関しては、毎年触れて来ましたが3, 4年前まではまだ「鹿」の防御柵内ではありましたが、山上でのお花畑が楽しめました。しかし、最近の「地球温暖化」の所為か、鹿の数が急激に増加して来ており、食草を求めて山上へ上がって来る頭数も多くなり、中には「柵」網を破ってお花畑に集団？で出沒することが多くなったと伝えられています。

今年の冬は山上も近年になく積雪が多かった所為か、防御柵を支える鉄柱が倒れたり、防御用網の破損なども多く山上での鹿の活動が増えたと伝えられています。地元米原市などが対策は進めてはいるようですが、効果のほどは不明です。（[ご興味をお持ちの方は、Yahoo で「伊吹山お花畑の鹿問題で検索。MBS のニュース番組：「泣けるほど寂しい」希少植物食い荒らす「シカ」で・・・報道動画が見られます](#)）

初秋のお花畑観察に訪れた2019年8月29日時点では西遊歩道～山上～東遊歩道のルート上で50種ほどの初秋の花が写真記録されていますが・・・この時以降、また今年の春の状況から皆さまのこれまでお持ちの「伊吹山のお花畑」のイメージが鹿の食害によりどのように変わって来ているかも感じとって下さい。

＊伊吹山の薬草

伊吹山は古くから「薬草の宝庫」として有名です。伊吹山にはシダ植物以上の維管束植物は1350種類が分付していて、そのうち薬用植物は280種あると言われています。

薬局方に収載され、医薬品として取り扱われるものから、漢方薬や民間薬として特に伊吹山周辺部での人々が現在も用いているものは100種類を越えていて、全国的にも珍しいと言えます。現在も伊吹山の岐阜県側に位置する春日村（現・揖斐川町春日）では採取した薬草を天日でよく乾燥し刻み「伊吹百草」として健康の為の茶剤や浴剤として利用されています。歴史のある「伊吹薬草」が基盤となり、各種の健康の為の産品が開発され地場産業に貢献しています。健康茶剤としての「伊吹薬草」の配合内容は家毎にその処方が異なるというほど多様です。

＊織田信長が安土城にいた永禄年間に、ポルトガルの宣教師と謁見した際、宣教師から「人の病を治すには薬が必要であり、そのためには薬草栽培が必要である」との進言を受けた。また、もう一説には鉄砲火薬の原料となる植物も含め、信長は伊吹山に薬草園の開設を許可しました。50ヘクタールという広大な薬草園には、西洋からもってきた薬草が300種類も植えられていたと言われています。山頂付近で見られる、「キバナノレンリソウ」はヨーロッパが原産、この時代に持ち込まれたものではないかと言われています。（伊吹山にしかない故）

江戸時代初期に書かれた「南蛮荒廃記」「切支丹宗門本朝記」「切支丹根元記」などにこの薬草園の記事が記録されていますが、当時の薬草園は現存しない。

・米原市の「伊吹薬草の里文化センター」内にいぶき薬草園、薬草温泉が併設されています。

・鍾乳洞

・伊吹山や鈴鹿山脈北部の霊山、御池岳、藤原岳など石灰岩で出来ている山々の湧水地は、火成岩で出来ている山体に比べ低高度となっている。これは、石灰岩が透水性（浸透性）であり深部まで水が浸透、多くは「鍾乳洞」を持ちここからの湧水が多いようである。湧水は冷たく硬水であることが特徴。（例えば紅茶 ⇒ 黒褐色にでる ⇒ Black tea）

・伊吹山附近でも最近「鍾乳洞」が見つかっており見学可能な「**関ヶ原・鍾乳洞**」として公開されている。また、鈴鹿山脈側でも三国岳山麓のいなべ市藤原町・員弁川湧水地に「鍾乳洞（篠立の風穴）」の存在が古くから知られているが、旧私企業採石場内であり一般公開されていない。

***【多賀町】河内風穴【所在地】**滋賀県犬上郡多賀町河内宮前 ・鈴鹿・霊仙山方向

総延長約 10,020m と日本で第 3 位の長さを誇り、滋賀県では唯一となる**鍾乳洞「河内風穴」**約 55 万年以前にできたとされています。まさに自然の神秘であるこの風穴からは、ひんやりした空気が常に吹き出しており、自然の力に満ちたパワースポットです。（8 月 19 日・自然と環境科バスツアー企画）

入口が 1m ほどと小さいのですが、奥に入るとどんどん大きな空間となっていき、ごつごつとした大迫力の岩肌が目の前に現れます。見学できるのは入口から 200m までなのですが、その奥にはいまだ謎の多い空間が広がっています。（ただし、この範囲では鍾乳洞地形・石筍や石柱などは見られない。）

*国歌「君が代」に詠われる「さざれ石」と

は さざれ石は、もともと小さな石（細石）の意味ですが、長い年月をかけて小石の欠片の隙間を炭酸カルシウム（ CaCO_3 ）が埋めることによって、1つの大きな岩の塊に変化したものも指します。学術的には「**石灰質角礫岩**」などとよばれます。石灰岩が雨水で溶解して生じた、粘着力の強い乳状液が少しずつ小石を凝結していき、あたかもコンクリートで固めたようになったものです。日本では滋賀県・岐阜県境の伊吹山が主要産地とされている。

岐阜県揖斐川町春日には「君が代」の由来となったといわれる「**さざれ石**」があり、そのさざれ石は岐阜県の天然記念物に指定されています。（上の写真、碑の左右の岩）



*ヤマトタケルノミコトにまつわる話

ヤマトタケルノミコトは、古事記では「倭建命」、日本書紀では「日本武尊」と表記されています。今から 2 千年ほど前、日本武尊は伊吹山の荒神を退治しに伊吹山に登りますが、途中で白い大きな猪と出会います。日本武尊はこの猪を「伊吹の荒神の使いの者」と思い、「今殺さなくても、帰りに殺してやろう」と言われたが、この猪こそ伊吹の荒神自身だったのです。荒神は日本武尊の言葉を聞いて大氷雨（雨と霧）を降らせ、日本武尊は命からがら下山します。伊吹山の麓に湧き出る清水のもとで休みようやく正気を取り戻します。この清水が **居醒**の清水（醒ヶ井?）と言われており、現在でも手の切れるような清水が湧き出しています。この



清水を辿って**鍾乳洞**も発見されています。伊吹山山頂にある日本武尊は、この伝説を記念して建てられたものです。 ****居醒の清水の場所**については異説もある。

* **日本武尊とトリカブト**

前記の伝記とは異なりますが・・・日本武尊の伝説は古事記（712）に倭建命（ヤマトタケルノミコト）による伊吹山の山神鎮定伝説があり、日本書紀（720）にも同じ記載があります。

その内容は「日本武尊が東征から都（当時は大和の国）に帰る途中、伊吹山の魔物（実は豪族？）を征伐するために伊吹山に来てみると、伊吹山を幾重にも大蛇が取り巻いていた。そこで日本武尊は大蛇を跨いで通り抜けようとした時、毒気に当たって高熱を出して倒れてしまった」というのですが・・・、豪族等は伊吹山に生息するトリカブト毒で応戦したとも伝えられています。

伊吹山に生息するトリカブトには、**イブキトリカブト**、**キタヤマブシ**、**ヤマトリカブト**等があり、減毒調整した上で薬用にも利用され、強心、強壮、利尿などの強い作用があります。

* **東西文化の分岐点**

伊吹山（関ヶ原）は、言葉や味覚といった日本人の生活文化の分岐点にもなっています。

*言葉は伊吹山を境に東側では西濃弁と言われる岐阜・愛知など東海圏の言葉になり、反対側の西の滋賀県側では、いわゆる関西弁のイントネーションが混じった言葉になってきます。

*また、「味覚」については東西の味覚の境界線というものがあり、伊吹山のふもと「関ヶ原」と、飛騨山脈・親不知を結ぶ線で東西が分かれます。「東の濃い口、西の薄口」と言われている通り、特に出汁文化に東西の違いが出ていて、カツオを中心とした濃い口の関東味と昆布を中心とした薄口の関西味は、ここ伊吹山で東西に分かれています。和風カップ麺の味や、コンビニのおでんのつゆ、新幹線の名古屋駅のホームにある「きしめん屋」さんの味が上り線と下り線で違うのも有名な話です。 *その他、お雑煮のお餅の形（東の焼いた角餅・西の焼かない丸餅）、おにぎりの形（東の三角、西の俵）、うなぎのさばき方（東は背開き、西は腹開き）などにも違いが・・・。

* **ついでに東名高速道沿いの案内**

* **三上山のムカデ退治**

近江国瀬田の唐橋に大蛇が横たわり、人々は怖れて橋を渡れなくなったが、そこを通りかかった倭藤太（藤原秀郷・ひでさと）は臆することなく大蛇を踏みつけて渡ってしまった。その夜、美しい娘が藤太を訪ねた。娘は琵琶湖に住む龍神一族の者で、昼間藤太が踏みつけた大蛇はこの娘が姿を変えたものであった。娘は龍神一族が三上山の百足に苦しめられていると訴え、藤太を見込んで百足退治を懇願した。藤太は快諾し、剣と弓矢を携えて三上山に臨むと、山を7巻き半する大百足が現れた。藤太は矢を射たが大百足には通じない。最後の1本の矢に唾をつけ、八幡神に祈念して射るとようやく大百足を退治することができた。藤太は龍神の娘からお礼として、米の尽きることのない俵などの宝物を贈られた。また、龍神の助けで平将門の弱点を見破り、討ち取ることができたという。（*三上山は、**近江富士**と称される山。名神高速道はその横を通る。）

* **急がば回れ ・・・ どこを「回る」のか？**

ことわざは、平安時代の歌人源俊賴か、室町時代の連歌師宗長（そうちょう）が詠んだとされる和歌「**武士（もののふ）のやばせの舟は早くとも急がばまわれ瀬田の長橋**」に由来する。

琵琶湖上を行く渡し船より、遠回りでも瀬田橋を通る陸路の方が確実という意味です。

*琵琶湖

滋賀県と言えば、琵琶湖ですが琵琶湖は世界でも有数の古い歴史をもつ湖です。約 400 万年前に現在の三重県伊賀市付近に浅くて狭い湖ができ(大山田湖)、その後、断層運動によって地盤が陥没する影響と土砂が窪地を埋める影響を受けながら、形状を変えて移動し現在に至っています。現在の琵琶湖は、少なくとも約 40 万年間この場所に定まっています。

・琵琶湖の面積は約 670km²。一番深いところの深さは約 104m。南北の長さは約 60km、東西の最大幅は約 20km です。

・琵琶湖には 1700 種以上の水生動植物が生息することが報告されており、そのうちの 60 種以上が琵琶湖の固有種です。

*多賀大社

滋賀県第一の大社で、伊邪那岐命（イザナギ）・伊邪那美命（イザナミ）の 2 柱を祀り、古くから「お多賀さん」の名で信仰を集めています。（多賀 S A より徒歩 15 分）

日本最古の書物「古事記」によると、伊邪那岐、伊邪那美の両神は神代の昔に、初めて夫婦の道を始められ、我国の国土、続いて天照大神をはじめとする八百万の神々をお産みになられました。このように、命の親神様であることから、古くから延命長寿、縁結び、厄除けの霊神として信仰を集め、鎌倉から江戸時代にかけては、武家や民衆の信仰が一気に広まりました。

「お伊勢参らばお多賀へ参れ、お伊勢お多賀の子でござる。」 伊勢神宮…天照大神をまつる。

春のしだれ桜、秋の奥書院の紅葉などもみごとで、また、近辺には彦根城や湖東三山、琵琶湖などの名所にも恵まれ、年間約 170 万人の参拝者を迎えているとのこと。

*醒ヶ井

・湧き水・梅花藻（参考：YouTube にっぽん水紀行 滋賀・近江八幡（醒ヶ井抜粋）で画像が見られます）

町内を流れる地蔵川は、居醒の清水などから湧き出る清水によってできた川で、水中花「梅花藻」で有名です。水温は年間を通じて 14℃前後と安定しており、貴重な淡水魚である「ハリヨ」も生息しています。また、「居醒の清水（いさめのしみず）」は、醒井の加茂神社に湧き出る名水です。古くは、「古事記」や「日本書紀」にも登場し、日本武尊が熱病に倒れた時、体毒を洗い流した霊水とも伝えられます。

平成 20 年 6 月「平成の名水百選」（環境省）にも選ばれています。

・梅花藻（バイカモ）

キンポウゲ科の淡水植物。梅の花に似た、白い小さい花を 5 月中旬～8 月下旬まで咲かせます。梅花藻と呼ばれるこの水草は、水温 14℃前後の清流にしか育たず、全国でも生育場所が限られています。いわゆる沈水植物ですが花は水面上に咲かせます。

・了徳寺の「お葉つきイチョウ」

地蔵川の右岸の了徳寺の境内に周囲 4 メートル、樹高 20 メートル、樹齢 170 年と推定されるイチョウの雌株の大木があり、正常な銀杏もつけますが、一部は葉面上に種子を生ずるので、オハツキイチョウと呼ばれています。イチョウは雌雄異株であり、オハツキには雄株で葉辺に葯をつけるものと、雌株で葉面上や葉縁に種子をつけるものとがあるとされる。了徳寺のイチョウは後者です。

以上 K. K o d a m a

伊吹山上のお花畑で初秋に見られる可能性のある花々

2022. 8.

花の色	種名	場見られた場所	草本・花の特徴等
紅・ 紅紫	イブキフウロ	山頂付近西	△2～2.5cmの5弁花、花弁の先が3尖裂する。
	ウツボグサ	山頂付近西	茎の先に穂状の花序をつける。シソ科。
	オオヒナノウスツボ	山頂	◎直立し1mほど、つぼ型の花を横向けに多数つける。
	カワラナデシコ	全域	◎山上のお花畑に散在する。
	クルマバナ	西・山頂	◎茎が四角形、段状に花が輪生する。がく片も紫色を帯びる。
	コイブキアザミ	全域	◎茎の先端部で枝分かれし多くの花をつける。(イブキアザミもあり)
	シオガマギク	全域	◎お花畑に散在、ゴマノハグサ科であるが葉が菊に似る？
	シモツケソウ	全域	△お花畑に大きな群落をつくる。伊吹のお花畑の代表種。
	タムラソウ	山頂付近	◎長い枝先にアザミのような花をつける。茎葉に棘がない。
	ハクサンフウロ	西・山頂	△2cmほどの5弁花、がく、花柄に開出毛が少ない。背丈3～80cm
	ヒメフウロ	西遊歩	◎花は1cm程度と小さい。葉は細かく切れ込む
	ヒヨクソウ	山上西	本来は春の花とされるが…。青紫の小花。葉は葉脈が目立つ。
	ワレモコウ	西上部	◎葉は長い羽状複葉、花の形がマツカサに似る。
橙色	ヨツバヒヨドリ	東・西	◎薄い紅色の花を枝先につける。葉は3～4枚が輪生。
	コオニユリ	全域	◎ユリの仲間、葉腋にむかごをつけない。
黄色	アキノキリンソウ	山頂・東	◎キク科、キリンソウに似て秋に咲く。
	オトギリソウ	全域	△草丈は20～60cm、2～3cmの花弁5枚。
	キオン	西、山頂	△茎が直立し頂部に多数の花を散房状につける。群落で見られる。
	キバナノカワラマツバ	全域	△小さな頭花を多数つける。白色のカワラマツバも見られる。
	キリンソウ	駐車場	厚みのある灰緑色の葉をもつ。茎の先に多数の花をつける。
	キンミズヒキ	全域	◎細長い黄色の花穂をミズヒキにたとえたもの。
	コウゾリナ	山頂部	◎茎・葉等全体に開出する剛毛をもつ。花は小型タンポポ状。
	ダイコンソウ	全域	◎根状葉がダイコンに似る。キツネノボタン状の花。
	タカトウダイ	西・中	△高さ30～80cm。花を茎頂にかかげる姿を昔の灯台にたとえた。
	フジテンニンソウ	西・東	◎茎頂に尾状の花穂をつけ、淡黄色の花を多数つける。群落。
	マルバタケブキ	東下部	◎大きなフキのような葉をもつ。茎を伸ばし7～10cmの花をつける。
	ミツモトソウ	山頂・東	◎茎は直立し50～70cm。開出毛が生える。3出葉を互生する。
	メタカラコウ	全域	△大型の草本で、大型の花序を立てる。舌状花は3～5個。群生。
	イブキトリカブト	全域・	◎兜状の大きな花をつける。花期は秋。東遊歩道下部でみれる。
	クサフジ	西遊歩	◎つる状、葉は羽状複葉で先端に巻きひげをつける。
	クサボタン	全域・P	◎葉は3出複葉で対生、葉の形がボタンに似る。花は青白色。
	ツリガネニンジン	全域	◎葉が節に3～5枚輪生し、つりがね形の合弁花をつける。
	ルリトラノオ	全域	△葉は対生し、葉柄がない。
	イワアカバナ	西・中	△背丈15～50cm、花弁4個、花弁の先は浅く2裂する。
	ミツバフウロ	西・東	◎茎の下部はほふく状、上部は立ち上がる。葉は3深裂する。
	イブキトウキ	西・東	ミヤマトウキ、葉は細かく羽状に切れ込む。
	オオハナウド	西・P	◎大型。シシウドに比べて、葉が3小葉で大きく、体全体に有毛
	コバノミナグサ	山頂部	△小型の5弁(10弁に見えるが)花、小型の毛のある葉をつける。
	サラシナショウマ	全域	◎背が高く群落をつくる。大型の円柱状の果穂をつける。
	シシウド	西・東	△草たけが2mにもなる大型草本。茎葉はウドに似る。
	シロヨメナ	西・中	△キク科。高さ1m内外の多年生草。葉は基部が茎を抱かない。
	ノリウツギ	西・東	△落葉低木。円錐状の大型の花序。
	ミツバベンケイソウ	西・東	◎葉は淡緑色で3輪生する。ベンケイソウ科。小花多数。
	ヤマゼリ	西・山頂	葉の切れ込みが小さく、複散形花序に多数の花をつける。

西:西遊歩道、東:東遊歩道 全域: 西・東遊歩道及び山頂付近、P:駐車場・法正

◎印:花期であり見られる可能性が高い。 △印:花期～8月末、9月～見られるか